

2016年末 手当第2回交渉 会社側が取り巻く状況を説明!

3.4ヶ月分の満額支払いを強く主張!

行く先、不透明感の無かった時代は一度も無かった!

利益は設備投資と同じく社員への投資として報いよ!

<要求内容>

1. 2016年度年末手当は、基準内賃金の3.4箇月分を12月2日までに支払うこと
2. 成績率の適用については、公平・公正に行うこと
3. 好調な企業業績を踏まえ、安全・サービス・人材育成に更なる投資を行うこと

★【組合】

- ・連結純利益の予想が2,660億円である。利益が上がれば設備投資と同じく人への投資も大切だ。
- ・本日(9日)アメリカ次期大統領はトランプ氏に決まりそうだ。株が大幅に下がっている。リーマンショックや東日本大震災にも負けない状況である。いつの時代も先行き不透明でない時は無かった。
- ・日本の労働環境として労働分配率が10年前と比べて年々下がっている。JR東日本では3年連続で賃金改定がなされ社員として組合員として感謝しているが、新人事賃金制度としての対応であり、以前の賃金制度から見れば定期昇給にも及ばない。
- ・年末手当、1日でも早い妥結と支給で社員を安心させてほしい。支給額についても利益が上がっている以上、社員が納得できる支給であってほしい。

★【会社】

- ・将来に渡って安定した賃金の維持が一番考えている。利益の流れが変わっている。総合的に判断し対応していく。
- ・全社員の頑張りや、会社としても理解している。平成24年に導入した新人事賃金制度を大局的に観ながら年末手当の支給と併せて対応していく。
- ・世間の相場と乖離するような対応は控えたい。総合的に判断し今後の対応を行う。
- ・労使の協調を図りながら早期妥結を目指している。総合的に判断し真摯に対応したい。
- ・賃金は人材への投資であると考えている。
- ・利益剰余金を取り崩すことは考えていない。もっと、収益を上げられたら更に前向きに考えていきたい。